

平成 26 年度日本 ICID 協会総会の開催

日本 ICID 協会は、平成 26 年 6 月 10 日（火曜日）に TKP 虎ノ門会議室にて総会を開催しました。

冒頭、太田会長より、「世界の人口増加と生活水準の向上による食料需要の増加に対応するため、かんがい排水の役割は益々大きなものとなっている。一方、世界各地で水資源の逼迫傾向が強まり、かんがい用水内部での水利用の効率化と、他種利水との競合に対応していく知恵が求められている。また、気候変動の影響にも賢く適応していくことが急務となっている。」との挨拶がありました。

ICID 日本国内委員会の佐藤洋平委員長より、「昨年 9 月の第 64 回 ICID 国際執行理事会および第 1 回世界かんがいフォーラム（トルコ・マルディン）において、日本は、参加型水管理を主体としたサイドイベントを行いました。様々な形で日本のプレゼンスを高め、着実に活動実績を挙げていることは、誇るべきことと考えている。今年は韓国で第 65 回国際執行理事会と第 22 回総会が開催されることとなっており、アジアで開かれることもあり、日本はいろいろな形でサポートしていきたいと考えている。日本 ICID 協会には、YPF の活動をはじめ、多大なご支援を頂いているが、今後も引き続きご支援頂きたくよろしくお願い致します。」との言葉がありました。

また、農林水産省農村振興局整備部設計課海外土地改良技術室宮崎雅夫室長からは、「昨年初めて世界かんがいフォーラムを開催し、日本は、ICID 日本国内委員会が進めてきた農民参加型水管理をテーマにサイドイベントを実施して好評であった。また、今年からかんがい施設遺産のような新たな取組も積極的に始めている。ICID では、これまで以上にいろいろな活動の中で、灌漑排水の分野だけにとどまらず、他分野との交流や研究者だけでなく農家も含めた幅広い参加者の活動を予定している。」との挨拶がありました。

総会では、第 1 号議案「平成 25 年度事業報告および収支決算（案）」、第 2 号議案「平成 26 年度事業計画（案）および収支予算（案）」、第 3 号議案「役員の改選（案）」について各議案が承認されました。

なお、この度 8 年間会長を勤めた太田会長に代わり、新しく林田新会長が選出されました。林田新会長からは、「ICID 日本国内委員会と連携をして ICID の様々な活動に積極的に参加し、畑地灌漑が主流の国々に対して、水田農業の営みにおける、農業水利の実態と考え方について、日本からの立場を説明していきたい。」との挨拶がありました。

（日本 ICID 事務局）



太田信介前会長の挨拶



佐藤洋平理事の挨拶



宮崎雅夫理事の挨拶



林田直樹新会長の挨拶